

■イスラエル田宮麻美（TLEA東京アンテオケ教会ミッションスタッフ）

皆様のとりなしのお祈りを心から感謝いたします。2022年10月31日から11月12日にかけてイスラエルに遣わされた44名に加わり、12年ぶりにイスラエルに行く恵みに預かりました。士師記18:6「安心して行きなさい。あなたがたのしている旅は、主がお認めになっています。」というみ言葉を頂いて派遣に参加しました。忙しい中、自分の弱さや限界を思い知らされた2週間ではありましたが、それを通して受けた恵みは信じられないほど大きく、み言葉通り「安心して」主の御手の中でやすらぎ、行く先々で主の示しや語りかけを受けてきました。そのいくつかをお分かちしたいと思います。

ガリラヤ湖を船で渡った時のことです。船上での時間は45分と短かったのですが、主のご臨在の中、賛美し、祈り、黙想して主との交わりの時を持つ中で、ペテロが主からみ言葉を頂いて水の上を歩いた箇所（マタイ14：22-36）から、主のみ言葉を求めて受け、信じて踏み出せばそれは必ず成ると、改めて示されました。

また新年度礼拝で新しい年の、み言葉を頂いた次の日、ヘルモン山に行きました。途中で自動車事故に遭いましたが、お祈り頂いていたおかげでツアーバスは一瞬の差で巻き込まれることなく、また事故車も含めて誰一人怪我をしなかったという奇跡が起きました。感謝します。ツアーを続けてヘルモン山に無事到着した後、山頂で礼拝し、祈ったり黙想したりしていたと

現地ガイドの通訳をする筆者（左）



ころ、突然ケーブルカーの発着所の1階部分から大音量の音楽と掛け声が聞こえてきました。こんな喧噪の中では普通は集中できないのですが、祈りも黙想も全く邪魔されずかえって平安があり、こんなことは初めてなので不思議に思っていたところ、帰り際にその理由が分かりました。1階では南米のクリスチャン40～50人ぐらいの団体が音楽に合わせて主を賛美し踊っていたのです。主を褒めたたえる歌と踊りなので、大きな音でも全く妨害にならないという訳でした。これから南米も含め全世界での宣教にも賛美がさらに大きく用いられて行くことを確信しました。

ガリラヤからエルサレムへの移動の途中では、イエス様がサタンの誘惑を受けたとの伝承の山に登りました。イスラエルの民がヨルダン川を渡ったと言われる場所を山腹から見せてもらいましたが、その辺りはまたイエス様がバプテスマのヨハネから洗礼を受けたと言われる場所の1つでもあります。主はその後サタンの誘惑を受けた時（マタイ4：1-11）、み言葉を引用してサタンを退けられました。ここ1～2年、主の働きの段階が変わり、み言葉に基づいた信仰の踏み出しが今まで以上に求められると示されていましたが、今回の派遣でその確認ができました。イスラエルの民が「向きを変え、葦の海の道を通って荒野へ旅立て」と語られた後の歩みから学び、主に従っていきたいという思いを新たにさせられた派遣でした。

